第25回同窓祭　英米文学科同窓会20周年記念講演会　2018年9月23日（日）

講師　高橋　睦郎　氏（詩人 文化功労者 日本芸術院会員）

世界詩としての能と俳句

講演は古今東西の文芸全般にわたる実に豊かな内容でした。先ず、ヨーロッパの教養人に説明なしに理解される日本の伝統芸術である能と俳句を西洋に紹介したのは、エズラ・パウンドであり、東洋美術研究家フェノロサの遺稿を整理編纂中に惹かれて、新詩運動イマジズムの起爆剤としたことを説明されました。パウンドが私設秘書として英国に一時期共に住んだW.B.イェーツは、後に能風の詩劇『鷹の井戸にて』を書きましたが、それに基づく新作能『鷹井』（1990年）を書かれたのが高橋氏でした。

英米文学科主催の国際ミルトン・シンポジウム記念新作能の詞章を委嘱され（国立能楽堂で2012年初演）、ミルトンの劇詩『闘士サムソン』を『散尊』に脚色する際、能の構造上、物語の紹介役や作者の代弁者であるワキにミルトンを配したのは、清教徒革命挫折後に盲目で陋巷に捨てられたミルトンが、ヨーロッパを転々として流浪の生涯を終えたパウンドに重なり、両者ともこの世の流謫者だと思えたからだそうです。

連歌から俳諧を経て独立した俳句は、世界最短の詩として欧米人には驚きでした。最近では、米小説家G.ソーンダーズの『リンカーンとさまよえる霊魂たち』に、死を通して生を考える能の世界を想起され、中有に漂う人間が平安を得るために能を観たり、俳句を詠むのであり、能も俳句も死と復活の文芸であると締め括られました。

その後の質疑応答にたっぷり時間を残され、何でも訊いてください、との促しに、フロアから様々な質問や感想が出されると、一つひとつにユーモアを交えて丁寧に応えてくださいました。紡ぎ出された言葉はどれも人生について深い示唆に富むものでした。

最後に、生きる上で指針にされている三つの言葉を『徒然草』、『葉隠』、吉岡実「犬の生活」から引用され、「生きていることが辛いことも含めて甘美」であり、「一生懸命楽しく暮らす」という生き方を披瀝されたのが印象的でした。格調高いお話から滲み出るお人柄は聴衆に深い感銘を与えました。

（会長　佐野弘子　'70年卒）

同窓会創設20周年に寄せて

設立当初の苦労や意気込みなどなつかしく思い出します。50名の発起人集めをして終身会費を預かり、カンパに頼り、通信費として百万円の借金等など。しかし、苦労と感じることなくワーズワースの詩の一行を会のモットーに掲げ、本誌の表題を『Aoyama Sapience』と決めました。英米文学科卒業生の誇りと、そこに流れる高邁な精神を先輩方から教えられたものです。

20年と言えばふた昔です。ここまで繋げられてきたことに感謝して、明日の同窓会のあり方を考えてみる時と思います。セミナーや講演会など数々の企画は同窓会の目的の一つ「知的交流」として評価されています。そこで会の運営を時の変化に適応できる次世代にスムーズに継承して行けば、新たな発想と交流が生まれ、やがて会員増強にもつながるかもしれないと期待しています。

（元同窓会会長　小野ユリ　'57年卒）

第38回講演会　2018年10月19日（金）

講師　石榑　利光　氏（元在ジッダ総領事　経済学部 '71年卒）

サウジアラビア：外交官の異文化遭遇

サウジアラビアは王族元老達の合議制から若い皇太子主導の政治に急変し、大きく揺れ動いています。

元在ジッダ総領事の石榑氏に講演を頂きました。初めにサウジアラビアの概要とイスラム教について解説がありました。

サウド家の名を冠した君主制イスラム国家で、アラビア半島の大半を占め、日本の5.7倍の国土に約3000万人が住む世界第2位の石油産出国。聖地メッカ・メディナがあり首都はリヤド。イスラムとは「服従」という意味で、ムスリム（アッラーの命令を守る者）にとって、ウンマ（富の公平な分配、思いやり、平等が実践される共同体）の建設が第一の義務とされています。

前近代的で不自由な生活がある一方、国は驚くべき巨大な経済都市建設計画（KAEC）を遂行し、09年に3600万㎡の敷地に総工費60億ドルで最先端技術開発目的の男女共学の大学院を開校しました。今年9月全長450㎞を最高時速300㎞で走行可能な高速鉄道（総工費290億ドル）を完成。広大な敷地に港湾、物流、金融、医療、リゾート、居住特区等の巨大開発事業も進行中です。

ジッダの財閥（アラブ商人）の優秀さも印象深い話でした。グローバルな思考と先見性に富み、夜の宴会の豪華さは桁外れで別世界のようです。

サウジアラビアのTV番組が 2009年9月のラマダン期間中、日本人の生活［交通機関の定時運行、落とし物が戻る等］を紹介し、その結果、正直で清潔、礼儀正しい日本人は畏敬の念から「異星人」と呼ばれているそうです。

主義、文化が異なっても相手の長所を素直に認め褒めることが相互理解、国際協調の第一歩だと実感しました。在学中難関外務省に入省し数々の要職を歴任された外交官石榑氏の貴重な経験に基づいた視野の広い講演でした。

（広報　川澤陽子　'72年卒）

2018年9月23日（日）

同窓会20周年記念 **懇親会**

アイビーホール シノノメ

会場には、20周年の歩みが綴られた会報や写真の展示がありました。

懐かしい思い出話に花が咲き、和やかな雰囲気のひとときを過ごしました。

▲佐野会長の開会挨拶

▲坂本大学部会長の音頭で乾杯

▲参加者全員で記念撮影